

『歴史言語学』第2号 (2013)

目次 (抄)

『歴史言語学』第2号に寄せる

後藤敏文

研究論文

ゲルマン語強変化動詞 V 類過去複数形に散発的に見られる
語根末摩擦音の有声化について— *wes- ‘be, stay, dwell’ の事例を中心に—
明治時代初期より昭和時代初期における日本指文字群の系譜

田中俊也

末森明夫

書評

高田博行・新田春夫編『ドイツ語の歴史論』
堀井令以知著『言語文化の深層をたずねて』

工藤康弘

神山孝夫

講演要旨

再建と類型論—印欧祖語をめぐって—

千種眞一

British Celtic Influence on English Phonology

Laker, Stephen

日本歴史言語学会 2012 年大会 研究発表要旨

訃報

日本歴史言語学会名誉会員
堀井令以知氏 (1925—2013) 履歴・主要業績

学友 堀井令以知さんを偲ぶ

特別寄稿 吉田金彦

堀井令以知先生についての思い出

名誉会員 吉岡治郎

堀井令以知先生の言語文化論と教師生活上の教え
—歴史的言語研究の学問一筋の人生—

特別寄稿 吉村耕治

以下略